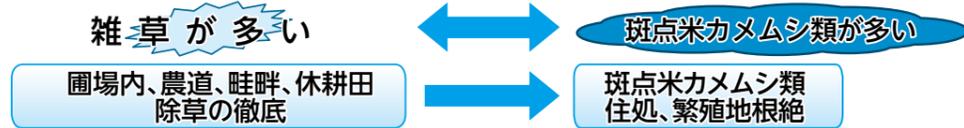


## 中後期除草と斑点米カメムシ対策

昨年も残草発生量が多く、今年の圃場残存種子量は多いと思われます。初期剤、一発除草剤の散布遅れとなった圃場では、後発雑草が多くなります。後発雑草は稲の影に隠れて大きくなるため、発見時には手遅れということもしばしば。溝切りや追肥、草刈り時に合わせて圃場内部に雑草が発生していないか確認してください。

色彩選別機の性能が上がってきているとはいえ、斑点米が多すぎると色彩選別機でも取り除ききることができず落等してしまったという事例があります。

斑点米カメムシ類はノビエ等のイネ科雑草、ホタルイ等のカヤツリグサ科雑草を好むため、おびき寄せないためにも圃場内の除草の他に、農道、畦畔、休耕田などの除草を地域でまとまって行い、繁殖地を無くすことが大切です。



## とりこぼしたら中後期除草剤

薬剤名	ノビエ	ホタルイ	オモダカ	コナギ	散布方法	成分回数
トドメMF	5~7葉期まで (剤型による)	効果なし	効果なし	効果なし	湛水散布	1
クリンチャー	4~6葉期 (剤型による)	効果なし	効果なし	効果なし	湛水散布	1
ヒエクリーン	4葉期まで	効果なし	効果なし	効果なし	湛水散布	1
バサグラン	効果なし	増殖中期まで	発生前期まで	○	落水散布	1
アトトリ	4葉期まで	効果なし	矢尻葉3葉期まで	効果なし	湛水散布	1
ヒエクリーン バサグラン	4葉期まで	4葉期まで	矢尻葉抽出期まで	○	極浅く湛水	2
クリンチャーバス	5葉期まで	増殖中期まで	発生盛期まで	○	落水・極浅く湛水	2
レプラス	4葉期まで	花莖10cmまで	矢尻葉3葉期まで	6葉期まで	湛水散布	4
バイスコープ	効果なし	草丈15cmまで	矢尻葉5葉期まで	3葉期まで	湛水散布	2

## 農薬安全使用

薬剤散布をする場合は、以下の点に注意し散布しましょう。

- ◎農薬のラベルに記載されている使用基準を遵守する。
- ◎農薬散布時は農薬飛散(ドリフト)しないよう風向や風速に気を付け、強風の場合は散布を控える。
- ◎農薬飛散(ドリフト)による周辺農作物等への影響が懸念される場合は、水面施用剤(粒剤)を用いる。
- ◎薬剤散布を実施する際は、周辺の住宅地や農作物に配慮し、事前に近隣住民に知らせる。
- ◎養蜂が行われている地区で薬剤散布をする場合は、養蜂業者と連携をとり、できるだけ早朝または夕刻に散布するなど、ミツバチへの危害防止を徹底する。



No.4

# 農業技術情報

令和5年6月発行

発行：秋田おばこ農業協同組合／秋田県農業共済組合仙北支所  
監修：仙北地域振興局農林部農業振興普及課



## 水管理で異常還元対策と生育管理 病虫害雑草対策は早めの対応がカギ

本年の育苗期間は、寒暖の差が大きく育苗ハウスの開閉作業に苦勞をしました。開放のタイミングによっては草丈の伸長に差がでたところもありました。また、寒暖の差が大きかったことで育苗期後半に苗立枯病やもみ枯細菌病が一部で発生し、昨年よりも多い発生となりました。

管内では、5月22日に田植え盛期(50%)を迎えました。田植え期前半は好天で活着が良かったですが、後半は曇雨天の日が多く田植え時期によって生育差が生じています。

今後の気温は高いと予報されていますが、生育をこまめに確認しながら栽培管理をしてください。

## 今月の栽培技術留意点

### 異常還元(ワキ)注意報

気温上昇とともに土中の有機物の分解が始まります。その過程で土中が酸欠状態になると根痛みの原因となる硫化水素などのガスが発生し、稲の生育に影響を及ぼします。有機物を多く投入している圃場を中心に、土を酸化状態にする水管理で影響を軽減できるので実践してみましょう。

#### 水の入れ替え

一時的に田面を露出させるなどして、土中のガス抜きと酸素供給をしましょう。

#### ケイ酸(アルカリ)資材の投入

還元状態になると、土中に有害な有機酸が発生します。アルカリ分を含むケイ酸資材を投入し、中和しましょう。

生育停滞なら  
窒素成分  
1kg程度/10a  
(硫安5kg/10a)  
速効性Nで硫酸根供給

## 雑草対策

5月中旬からは気温が高めで推移してきているため、田面が温められ雑草の生育も早まっています。取りこぼし雑草がないか、田面をよく確認して早めの対策を取ってください。

今年も雑草は生えてきます!!

雑草が大きくなる前に除草剤散布

草種に合わせた薬剤の選定

除草剤散布時は水をたっぷり張る

止め水期間を厳守

## 異常気象対策

今夏はエルニーニョ現象が発生すると予報されています。エルニーニョ現象が発生すると日本では冷夏になりやすいと言われています。今後、予想される異常気象に対応すべく、稲の生育をよく観察しながら、追肥や水管理、ケイ酸資材投入をしていきましょう。

## 新たな水管理「飽水管理」の提案

近年は、異常還元（ワキ）が発生することが多くなり、初期生育の停滞が課題となっています。これは、温暖化に加えて、年々ワラが多くなってきていることや肥料高騰によって堆肥等有機物投入が多くなっていることが要因と考えられます。異常還元は、有機物が分解される過程で、土中酸素が消費され酸欠状態になり、嫌気性菌の活動が活発化し硫化水素などのガスを発生させることが原因です。これらのガスが稲に触れると根痛みの発生や、地上部の葉色低下や生育停滞を引き起こされます。

これを防ぐには、土中を酸化状態（酸素が十分にある）にする必要があります。これまでは、田植え後2号分けつを抑制する深水管理後、中干しまで常時浅水管理でしたが、常時湛水ではなく、一時的に田面を露出させ、土中に酸素供給とガス抜きをする水管理「飽水管理」を提案します。

### 飽水管理の方法



- ・ 土壌を湿潤状態に保ち、異常還元を回避しながら、土中に酸素を供給させる。
- ・ 出穂前後は大量の水が必要になるため、3cm程度の湛水管理。登熟期間も飽水管理とする。
- ・ 常時湛水ではなく、一時的に田面を露出させる。
- ・ 除草剤等散布時は、止め水期間を守ってください。
- ・ 田面にヒビが入るほどは乾かしすぎない。
- ・ 田面が柔らかくなりすぎないように注意。

## 適期に中干しを実施

田植え時期が早くても遅くても、稲の生育ステージは大きく変わりません。そのため、中干し時期を遅くする必要は無く、適期に行わなければなりません。落水後も分けつは発生します。梅雨時期にも重なるので余裕を持って深水管理・中干しを行いましょう。溝切り作業も忘れずに行います。

### 中干し実施の目安

6月20日頃に調査し、あきたこまち有効茎決定期の目標茎数346本/m<sup>2</sup>の8割(277本/m<sup>2</sup>)を確保したら深水管理を行い、中干しを行いましょう。

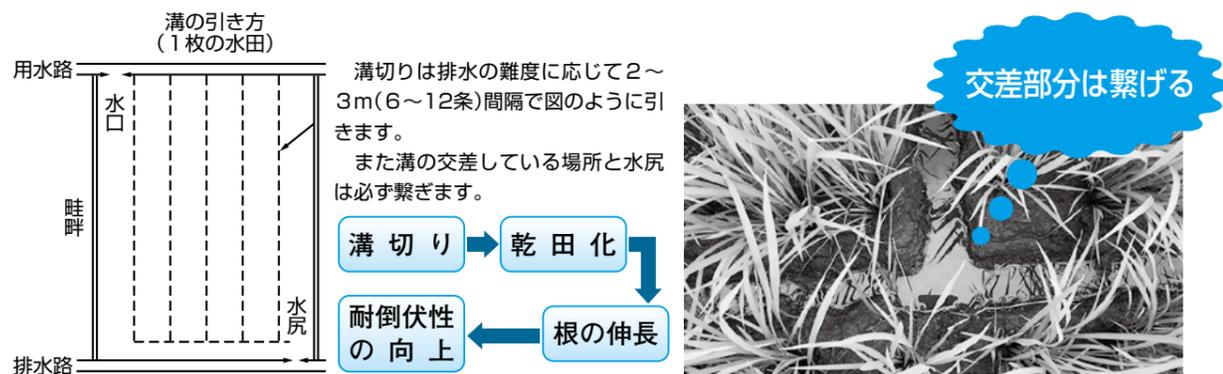
277本/m <sup>2</sup> の目安		277本/m <sup>2</sup> 以上	直ちに中干しを行う。
栽植密度	株あたり茎数		
70株植	13本	277本/m <sup>2</sup> 確保	深水管理を行い中干しを行う。
60株植	15本		
50株植	18本		
		277本/m <sup>2</sup> 未満	有効茎確保後軽めの中干しを行う。

### 中干し要点まとめ

- 中干し期間は7~10日程度 幼穂形成期前までには終了
- 田面に亀裂幅1~2cmでOK 黒ボク土、泥炭土は直接確認 強い中干しはNG

## 溝切りの実施

効率的な水管理ができる「溝切り」は稲作の必須技術です。溝切りは、中干し開始2日後頃の田面がやや軟らかい状態で行います。溝の交差部分と水尻は忘れずに必ず繋いでください。乗用型溝切り機は少し水を張った状態で行うと作業効率が上がります。圃場整備初年度や排水不良田、高低差がある圃場では必ず溝切りを行ってください。



## 葉いもち防除は予防第一で

令和3年、4年と一部地域では、いもち病の発生が多くなりました。いもち病は一度発生すると広範囲に感染が広がり、食い止めるのが難しい病気です。昨年の発生地域を中心に警戒を怠らずに徹底防除をしてください。

### 余り苗は速やかに処分

余り苗は、圃場にあるだけでいもち病の伝染源となります。移植作業が終わったら、ただちに土中に埋没するなど確実に処分してください。

### 主食用米以外もいもち防除を

WCSや飼料用米等のほ場でもいもち防除を必ず行ってください。

葉いもち予防のための箱処理剤や側条施用を行っていない場合は必ずオリゼメートを散布してください。

### 近年のいもち病感染好適日初日

	R1年	R2年	R3年	R4年	オリゼメート粒剤	
大 曲	6月25日	6月26日	6月23日	6月27日	散布時期	6月15日頃 (6/12~6/18)
田 沢 湖	7月5日	7月5日	7月10日	6月24日		
角 館	6月25日	6月27日	6月23日	6月28日	散布量	2~3kg/10a

### 緊急対策時(例)

薬 品 名	散 布 時 期	散 布 量
ブ ラ シ ン (予防・治療)	発生確認時	粉剤DL: 3~4kg/10a フロアブル: 1,000倍液 60~150リットル/10a

## まだ間に合うケイ酸

ケイ酸が十分にあることで、異常気象下でも稲体の呼吸・蒸散機能が維持され、稲体の夏バテを防ぎ登熟を向上させます。さらに、籾殻の結合を強くし割れ籾を防ぐことで斑点米カメムシ類による被害を軽減してくれます。ケイ酸は、高温、低温、日照不足等異常気象下での稲作に欠かせない必須成分です。

春先に散布していない方は早期にケイ酸を施用し、整粒歩合を高めます。



### 中間追肥一覧

肥 料 名	種 類	施肥量(kg/10a)	施用時期	施 用 効 果
お ば こ ろ ま ん 大 地 ※JA在庫限り	ケ イ 酸 含 有 肥 料	20~40kg	幼穂形成期 まで	①倒伏抵抗性が高まる ②根の活力向上 ③有効茎歩合向上 ④登熟歩合向上 ⑤食味向上 ⑥病害虫被害の軽減 ⑦葉身の老化軽減 ⑧ワキの発生抑制
け い 酸 加 里		20kg		
シ リ カ 未 来		1.4kg(1本)		
K S K 28	リン酸 含有肥料	20kg	9葉期まで	異常還元(ワキ)等により、分けつが遅れている稲や根張りの弱い稲に使用。 ①根の活力向上 ②有効茎歩合向上 ③登熟歩合向上
P K 40 号				
マ グ コ ー プ				